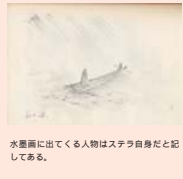


趣味も多彩な人でした。



水墨画に出てくる人物はステラ自身だと記してある。



レースで作った繊細製の自作の人形



江の島の文成丸釣会にはケーキ持参してしばしば参加しました。(中央黄色ジャケット)



カリフォルニアで、当時大型ヨットで水上生活をしていた横夫娘の夢は世界一栄えりだった。無縁の資格があれば乗せてもらえらると思ったステラは免許を取得した。



ていねいに一点一点手描きの絵はがきをいつも出してました。

新聞・テレビなど数々のメディアが紹介した。



「神戸異国のキッチン」と題して神戸新聞にステラの立派な住い立ちやその時代を語りながらレシピが40面の連載で紹介された。真ん中は記事を一冊の年としてまとめたもの。

ケーブルテレビ、ラジオ、女性雑誌、健康雑誌など様々なメディアが生涯現役を目標して元気に頑張る姿を思い出しけた。

料理のあの味、あの笑顔を私たちは生涯忘れないことでしょう。



Grandma Stella

たくさんのおいしい・楽しいをありがとう。



1919 Dec. 13th ~ 2005 Sep. 12th

ステラ・マリス (ラテン語で海の星の意 本名 大森節子 2005年9月12日午前9時7分永眠)を偲んで.....

生まれ育った神戸が料理の原点でした。



ステラは幼少の頃、家庭の事情でドイツ人の貿易員フリューガ夫妻に引き取られて終戦の年まで暮らし、夫入から料理や作法などを学んだ。



フリューガ邸は、今も神戸市北野町の異人館「北野外国人倶楽部」として残っている。



11才上の姉貴子もフリューガ家の家庭教師兼コックとして住み込みで働いていた。ステラは姉からも料理の基礎をたたき込まれた。

神戸から横浜へ

終戦後横浜に来たステラは、アメリカ、イギリス大使館のセカンドシェフ、ノルウェー領事館のパーティシェフなどを勤め、横浜在住の外国人の間で評判となる。

- 日本初の女性シェフに登録される。(40才)

日本司厨士協会の設立にも加わり、欧州料理研究視察団として派遣された。



- 元町に「ステラ・マリス」をオープン。(40才)

- 「ステラ・マリス」戸塚駅前に移転。(60才)

- オーストラリアへ約1年間、日本食レストランの立ち上げに招聘される。(69才)



オーストラリアのお店スタッフと



- 東戸塚のマンションでロコモレストランを開く。(71才)
駅から1分のマンションにアンティークのテーブルと椅子。あたかも秘密クラブといった風情でした。(右写真)
- 再び元町に「ステラ・マリス」を開店。(73才)
クルーザーのキャビン風にしつらえたお店で、10人も入ると立たなければならなかったほどのかわいいお店。



- 本牧コミュニティハウスにおいて「食文化の会」を25回まで続けた。(82才まで)
コミュニティハウスの館長越水さんのご尽力と、おばちゃんを愛する多くのボランティアの皆さんが支えたこの集いには、老若男女さまざまな人々が集まり、和気あいあいと料理を楽しみました。



パリ景の日に行われた第22回の参加者 右は料理とレシビ

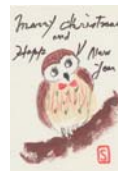


画を撮ることに参加者が増えましたが、会場の都合で25回で終わりました。ボランティア同士のカップルも誕生。



- 大森のレストラン「ステラ・マリス」開店をプロデュース (83才)
開店後もしばらく厨房に立って指導しましたが、体調不良で引退。

- クリスマスパーティーも恒例となる。
毎年ホテルニューグランドが使われ、ボランティアのフラダンスや生演奏なども入って大いに盛り上がった。



大森の「ステラ・マリス」住まいの山手まで通うのが大変で、お店に寝泊まりして頑張りました。



2005年3月27日 (浅原さん撮影)